令和8(2026)年度 10月号 橿原市立真菅北小学校 令和8年10月1日

真菅北だより

学校教育目標 自ら学び,考え,判断して行動できる心豊かでたくましい児童の育成

修学旅行と平和学習
お二人の「強い思い」を受け止めて

6年生が広島への修学旅行へ行ってきました。現地での学びを深めるため、事前学習では2名のゲストティーチャーをお招きしました。

一人目の大木一之さんは、個人で戦争関係の資料を収集されている方です。第二図書室に半日がかりで設営された展示場には、当時の衣類や日用品など、平和資料館さながらの極めて貴重な実物資料がずらりと並び、他学年も含め学校全体で学ぶ貴重な機会となりました。

もう一人の秋山勝彦さんは5歳の時に広島で被爆され、その体験を著書『ぼくの戦争』に著しておられます。本来なら思い出したくない凄惨な経験ですが、核兵器が増え続ける現代だからこそ「ヒロシマの犠牲を忘れないでほしい」と、子どもたちへ思いの丈を込めて直接語ってくださいました。

そして迎えた修学旅行。お二人の強い思いを受け止めて広島の地に立った子どもたちの姿には、これまで以上の真剣さがありました。ボランティアガイドさんの話に熱心に耳を傾け、原爆資料館では限られた時間の中で、少しでも歴史の現実を記憶に刻もうと必死でメモを取っていました。

二人から手渡された平和へのバトン。現地で本物に触れ、肌で感じた平和の尊さを、子どもたちにはこれからも深く考え続けていってほしいと思います。



平和の軸線

「平和の軸線」とは、広島の平和記念公園で原爆ドーム・慰霊碑・資料館が一直線に並ぶ設計のことで、まっすぐ伸びる直線を通して「過去の悲劇を忘れず、未来の平和へ祈りをつなぐ」という強い願いが込められています。

縦割り活動の「なかよしタイム」で、6年生に教えてもらって全校みんなで千羽鶴を折りました。平和セレモニーで「折り鶴」の歌とともに原爆供養塔に奉納しました。

千羽鶴





読書、一緒に楽しんでみませんか

デジタル時代だからこそ、「紙の読書」で育てる子どもの思考力

スマホやタブレットの普及で、動画は子どもに身近なものになりました。短い動画が次々と流れる仕組みは魅力的ですが、受け身のまま強い刺激を浴び続けるため、深く考える前に次の情報へ流されがちです。この姿勢が習慣になると、教科書を開いたときにも脳が同じモードになり、「文字の表面を追うだけで内容が頭に入らない」という状態を引き起こす原因になります。

一方、「紙の読書」には自分のペースで進められる「余白」があります。本を読んでいるとき、子どもの脳は「どういう意味だろう」と立ち止まったり、「これって本当かな」と疑問を持ったり、無意識に思考を巡らせています。このプロセスこそが、溢れる情報の中から自分の視点で物事を捉え、知識を深く定着させて本当の読解力へとつなげます。

文字から想像を広げる読書は、子どもの「考える力」をじっくり育てます。デジタル社会だからこそ、一度スマホを置いて、静かにページをめくる時間を大切にしてみませんか。

【学年別】おすすめジャンルと名作の紹介

ご家庭での本選びの参考に、発達段階に合わせたジャンルとおすすめ本を紹介します。

- **低学年（1・2年）：絵本から児童書へのステップアップ**
  文字から場面を想像する楽しさを知るために、「動物や魔法が登場する短い冒険物語」が最適です。まずは大人による「読み聞かせ」から始めるのもおすすめです。
  - 【おすすめ本】**『エルマーのぼうけん』 ／ 『ふたりはともだち』**
- **中学年（3・4年）：主人公に共感できる読み物**
  長文が読めるようになる時期です。学校生活や友達関係など、「自分と等身大の主人公が活躍する物語」や「謎解き」が、読書を好きになるきっかけになります。
  - 【おすすめ本】**『チョコレート工場の秘密』 ／ 『ズッコケ三人組』シリーズ**
- **高学年（5・6年）：社会の仕組みやリアルを学べる本**
  視野が広がり客観的な思考が育つ時期です。少し複雑な人間模様を描いた「成長物語・小説」や「伝記」がおすすめです。分厚い本への挑戦が地頭力を大きく育てます。
  - 【おすすめ本】**『モモ』 ／ 『ぼくらの七日間戦争』 ／ 『バッテリー』**

読書は「たくさん読ませる」ことより、子ども自身が「おもしろい！」と自発的にページをめくる体験が大切です。ぜひ図書館へ足を運び、今興味のある一冊を一緒に見つけてみませんか。